

## 学会企画シンポジウム 6

### 中学受験の心理と課題

企画・話題提供：村井潤一郎（文京学院大学） 企画・司会：南風原朝和（東京大学）  
企画：橋本創一（東京学芸大学） 話題提供：野澤祥子（東京大学）  
話題提供：三浦巧也（東京農工大学） 話題提供：杉山剛士 #（武蔵高等学校中学校）  
話題提供：森上展安 #（森上教育研究所） 指定討論：子安増生（京都大学）

キーワード：中学受験

#### 【企画趣旨】

入学試験は重要なライフイベントの一つである。中でも中学受験は、高校受験・大学受験と比べた場合、小学校高学年という、発達的により早期に経験するという特異性、そして、受験せずとも公立中学校に進学できるのにも関わらずあえて受験をするという特異性がある。中学受験の実態については受験教育関係者による把握が一般的であり、教育心理学が学術的研究の対象としたことはこれまでなかったと言ってよいだろう。しかしながら、子どもが小学校高学年から（あるいはそれよりも早い段階から）大なり小なりストレスフルな状況下に置かれることの心理的影響、そこに関わる家族関係、受験勉強と小学校での学習との関係、など、多くの検討すべき課題がある。

私立・国立、そして近年は公立中高一貫校の受験者が増えており、その準備が早期化しているが、全国的に見れば私立中学校に通う生徒は 7% 台であり、この 1 割に満たないという事実をどう捉えるかという問題はあるが、検討に値する割合だろう。この割合は都道府県によって大きな差異があり、最も高い東京都では 25% 程度にも達する。さらに東京の中でも地域によって割合は大きく異なる。このように地域性との絡みも興味深い。

本シンポジウムでは、受験教育関係者、中高一貫校校長、スクールカウンセラーを交え、中学受験の現状についての理解を深めるとともに、教育心理学の観点からどのような問題提起や提言ができるのか、ひいては、教育とは何か、発達とは何か、について考える機会としたい。話題提供とディスカッションを通して、中学受験に関し、教育心理学が取り組むべき課題について、今後の展望が得られることを期待する。